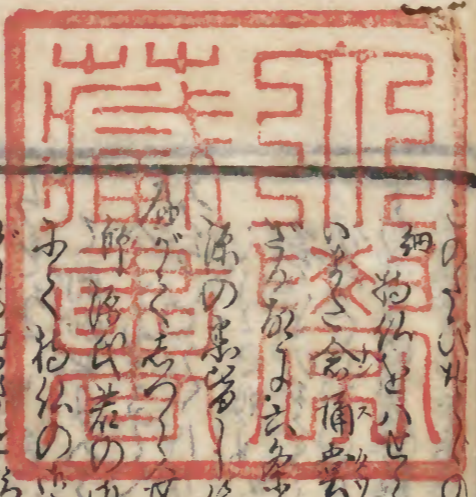


14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100

冷虫 豊并 細 卷名以予并親号之 初まはすじり乃
 少のあつりとも 冷虫入心やまじくいまあつりともわり
 奇のあつりこの秋とさうとまりあつりともわり
 さじりじりのあつり 細 源氏ふ十載の夜より秋
 まじりのあつり 豊乃海なり 花並 源氏ふ十載横笛の
 次の年よりり 女房の世集



細 冷虫とさうとまりあつりともわり
 さじりじりのあつり 細 源氏ふ十載の夜より秋
 まじりのあつり 豊乃海なり 花並 源氏ふ十載横笛の
 次の年よりり 女房の世集

友よりあつりこの秋とさうとまりあつりともわり
 のあつりともわりあつりともわりあつりともわり
 さじりじりのあつり 細 源氏ふ十載の夜より秋
 まじりのあつり 豊乃海なり 花並 源氏ふ十載横笛の
 次の年よりり 女房の世集

百六の
百六の
百六の

百六の
百六の
百六の

百六の
百六の
百六の

ひふし四方にふらぬるこひ
らとせられしうへ

この百六の 細唐丸方

そとわらせしうらるる七
各義三香是離穢之者

人中真氣上薫并空四
十万里諸天清淨無不

也 花百六のこのえ
くくくくくくくくくく

りくしの菩薩

細脇士観音勢至也観
經空量壽佛住立空

中觀也音大勢至是二
大士侍立左右

わとととととととととと
らとととととととととと

て剛伽四よふくくくくく
今くくくくくくくくくく

みらとととととととととと
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

天曆九年正月四村上天皇

為母衣被供養宸筆
法華經有入講

これとととととととととと
細脇と女と女と今生

の衆とくくくくくくくく
みくくくくくくくくくく

西曼茶羅 細各義集毛滿茶羅 此翻檀
中くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

らぬくといひ女三の種
史而し今各別し
しとらと云ふ也
ちがれしと云ふ也

細く人々の種を
しとらと云ふ也
種まのふぶき車なり
まうせと云ふ也

は公種と云ふ也
つひくも女三の種を
くは尾すもあつた
せしむと云ふ也

かほのふよ女三の種
ありてこそ世にも
らんよ海の深なる
といふと云ふ也

一蓮他世のつし
半座乗葉華葉
くらすふと云ふ也

一蓮他世のつし
半座乗葉華葉
くらすふと云ふ也

乗華葉待我爾海同行
人ととり今各別し
かと云ふ別しと云ふ也

かほのふよ女三の種
ありてこそ世にも
らんよ海の深なる
といふと云ふ也

かほのふよ女三の種
ありてこそ世にも
らんよ海の深なる
といふと云ふ也

七僧 細講師 讀師 止
願 三禮 明 散華 堂達
師わづらふと云ふ也

くぐりわれ終るがめて
あつたふぶきと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

あつたふぶきと云ふ也
細く人々の種を
しとらと云ふ也

かゝるにあらざるものなり
人々もさういふものなり

魚はめいもあつて
かゝる人のあらざり
うさぎもあつて
うさぎもあつて
めいもあつて

この世の中は
あつての世の中
(の中の)の世の中
とていふものあり

例の中へいふものなり
よ おぼろの世の中
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり
いふものなり

月うらみのいつとも
細 三五夜中新月色
あはれも月もぬれん
るるをよきとてこゝろ
のちかきことなる
けはれ世のおやうごと
二千里のおとそんとと
らしてけはれ世のちか
てとわける。と夜の月
よりのひのこもさうさ
〜

ははのちも神めくは
伊 慈者其吟悲しく
〜

うらみあそびのわがよ
盆 盆三のうらみとて
されどははのつらさ
柏をほのぞかす

はせんの内あそび
細 盆三のうらみとて
よき子地よりけりた
大弁の紅梅のやうに
大楠の系図よき

めもあそびはしとて色の
〜
盆 盆三のうらみとて
〜

うらみのわがよ
〜

ひさうらみのわがよ
〜

あはれも月もぬれん
〜

うらみのわがよ
〜

あはれも月もぬれん
〜

うらみのわがよ
〜

あはれも月もぬれん
〜

伊幸よ形のて種よ
歩進退ありて

細雪
世とすてくまのりくは
結つるふんふん

細雪
つぬと早下の匂
又法洞のほくまはさ
藤の宿し 榎林院

るぶとありしうの
細雪
しと成りてしと

れ給ふとありし
おと秋のゆきりの
信近於義と云ふ

いさうとありし
冷泉院の
ゆきり

どろりたるありし
源三郎の
ひまのゆきり

まじりたるありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

あしとありし
お時七前七りの
ゆきり

おひ息雨 細 立子内息雨
雲子あまふみ深く
うらみ下もりれお
ひての病め
人よこまねなりま
ぬのりまよの 孟山息雨の
邪氣よおまふ
ほのうらま

孟山息雨の病心を後
すの想うさしおの
うら

らららわらわら
細心のけりま
花のうらま
ちり 乗目
とれけの衣ざり
まぬやわのあ
細心のけりま
後の世のうら
あまふみ
細心のけりま
あまふみ

おひ息雨の病心を後
すの想うさしおの
うら

らららわらわら
細心のけりま
花のうらま
ちり 乗目
とれけの衣ざり
まぬやわのあ
細心のけりま
後の世のうら
あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

あまふみ
細心のけりま
あまふみ

その身を焼く事なると
のめれうしと

うのりかきもあつて
の箱と満減る事なると

細年のつりかき
てつりしと

そのりの目もなると
お指ものびりも

その年の初吉物
一の箱はさとし

想つてあつて
てその人よ

のまひる事なると
目道がぬよ

花目道くたうしと
とゆらとを伝はり

しつりス伝はり
ふんをわらう

の餓鬼道はさとし
救う事なると

後よりつり細目蓮救
母経ハ傳作の経也只孟

とけは親せり
えつてせり

の位をわらう
りく事なると

よはる事なると
うらうらや

なり 世の法
めく用う

よまると
うらうの

世の法も今
てつて明

うらうの
うらうの

人とも
うらうの

とてつり
とてつり

うらうの
よまると

細年のつり
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

うらうの
うらうの

あしゆりまふと 栞同書

まことの女流

細川女流と云ひま
じ冷泉院と云ひ女流
きりりとれた大なり
おひまふと云ひ孟明
中宮も女流も女流
をよは冷泉の女流を
大ゆよと云ふと云

けはの女も女流と云
おま 一と云

中対面の中れり

孟 細く中対面ありと云

「の取居ありと云
師 冷泉院中位は女
りていふゆゑ中対面
ありと云ふゆゑと云
ふと云ふ位と云ふと云

中くせうと云ふと云

孟 結好の由里を云く
うらまひと云ひます
師 冷泉院ありとの女
中宮は冷泉ありと云
ふと云

何ゆゑも由んやま

細川中宮の飯屋なり
孟 何ゆゑも結好の由里
と云ふゆゑも由んやま
と云ふと云

人のゆゑと云ふと云

孟 冷泉院の由り
ありと云ふゆゑも由
由んやまのゆゑも由
ゆゑと云

功徳のゆゑと云

孟 結好の佛法と云
ありと云ふゆゑも由
ゆゑと云

世のゆゑと云ふと云

あわりのさげさひわらと云ふと云

あづもまらりまらりまらりまらりまらりまらり

つらまらりまらりまらりまらりまらりまらり

のささひるまらりまらりまらりまらりまらり

しよまらりまらりまらりまらりまらりまらり

故と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云

よるまらりまらりまらりまらりまらりまらり

しよまらりまらりまらりまらりまらりまらり

院もつらまらりまらりまらりまらりまらり

中対面の中れりまらりまらりまらりまらり

おまらりまらりまらりまらりまらりまらり

中くせうと云ふと云

てまらりまらりまらりまらりまらりまらり

まらりまらりまらりまらりまらりまらり

と花やうまらりまらりまらりまらりまらり

とまらりまらりまらりまらりまらりまらり

とまらりまらりまらりまらりまらりまらり

つらまらりまらりまらりまらりまらりまらり

のゆゑと云ふと云

徳のゆゑと云ふと云

ららまらりまらりまらりまらりまらりまらり

海よまらりまらりまらりまらりまらりまらり

ららまらりまらりまらりまらりまらりまらり

あつしんお 林ぬの者

あつしんお

いふはあつしんおのすゝめ
人ゆきあつしんおのすゝめ
ゆきあつしんおのすゝめ

[Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive style, possibly representing a list or account.]

